

製品名: サイトケラチン 17 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09734**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT17
別名	KRT17; Keratin; type I cytoskeletal 17; 39.1; Cytokeratin-17; CK-17; Keratin-17; K17
遺伝子 ID	3872.0
SwissProt ID	Q04695
免疫原	抗血清はヒトケラチン 17 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 381-430

背景

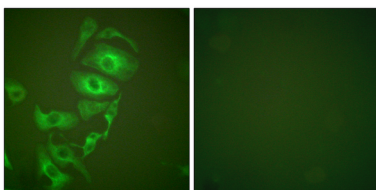
この遺伝子は、爪床、毛包、脂腺、その他の表皮付属器で発現する I 型中間径フィラメント鎖ケラチン 17 をコードしています。この遺伝子の変異は、ジャクソン・ローラー型先天性爪厚化症および多発性脂肪嚢腫を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 8 月]、疾

患: KRT17 の欠損は、ジャクソン・ローラー型先天性爪厚化症 2 型 (PC2) [MIM:167210]の原因です。PC2 は、爪肥厚性ジストロフィーによる爪甲拘縮 (爪の肥厚と湾曲の増加)、掌蹠角化症および多汗症、毛包性角化増殖、多発性表皮嚢胞、眉毛および体毛の欠如またはまばら、および出生歯の存在を特徴とする常染色体優性外胚葉異形成症です。、疾患:KRT17 の欠陥は、多発性脂肪嚢腫 (SM) [MIM:184500] の原因です。SM は、背中、前体幹、腕、陰囊、大腿部に広く分布する円形または楕円形の嚢胞性腫瘍を特徴とする疾患です。、疾患: KRT16 と KRT17 は、子宮頸部の化生や癌、および尋常性乾癬などの病態においてのみ共発現します。、機能: 様々な皮膚付属器の形成と維持、特に毛髪形状と方向の決定に関与している可能性があります。複雑な上皮における基底細胞分化のマーカである可能性があり、したがって特定の種類の上皮「幹細胞」を示唆しています。乾癬の免疫病態において自己抗原として作用する可能性があり、特定のペプチド領域は自己反応性 T 細胞の主要な標的となり、それらの増殖を引き起こします。毛包の正常な成長、特に成長期 (成長期) の持続に必要です。毛周期という特定の状況において TNF- α の機能を調節します。アダプタータンパク質 SFN への結合と Akt/mTOR 経路の刺激を通じて、タンパク質合成と上皮細胞の成長を制御します。組織修復に関与します。、誘導: 損傷またはストレスを受けた表皮で誘導されます。サイトカインであるインターフェロン γ (IFN- γ)、腫瘍壊死因子 α (TNF- α)、および形質転換成長因子 α (TGF- α)、そして強力な NF- κ B 阻害化合物である Bay 11-7082 および Bay 11-7085 によって誘導されます。イマチニブという薬によってダウンレギュレーションされます。、その他:細胞骨格ケラチンとミクロフィブリルケラチンには、I (酸性; 40-55 kDa) と II (中性から塩基性; 56-70 kDa) の 2 種類があります。、オンライン情報:ケラチン 17 エントリ,類似性:中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット:タイプ I とタイプ II ケラチンのヘテロ二量体。KRT17 は KRT6 異性体と関連しています。TRADD および SFN と相互作用します。、組織特異性:眉毛とあごひげの毛包の外毛根鞘と髄質領域、指の歯髄、爪母と爪床上皮、粘膜重層扁平上皮、口腔上皮の基底細胞、掌蹠表皮、汗腺、乳腺に発現します。前立腺の筋上皮、膀胱の基底層、脂腺の形成層細胞、子宮頸管 (タンパク質レベル) にも発現しています。

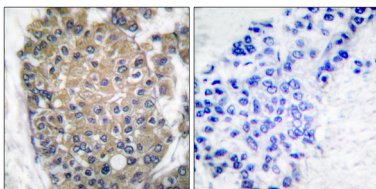
研究分野

シグナル伝達

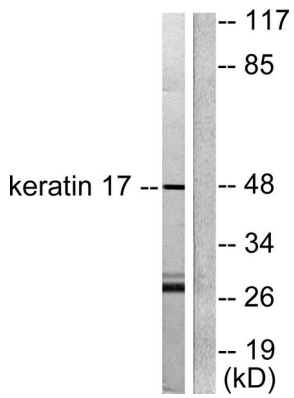
画像データ



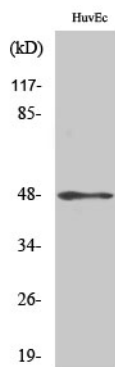
ケラチン 17 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ケラチン 17 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ケラチン 17 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈のサイトケラチン 17 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析